



令和7年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【小山地区】

令和8年3月31日現在

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	小山中ハロフェス盛り上げ隊	小山地区ハロフェス(あいさつ運動)プロジェクト	昨今では近所付き合いや人間関係の希薄化、コロナ禍も相まって地域のおまつりやイベント等も縮小傾向にあり、地域の人々の関わりの場が少なくなっている。これは、安全・安心や防災の分野でも負の要因となっており、人と人とのつながりの大切さをあらためて共通認識する必要がある。 そのような中、小山中学校では、年4回正門でのあいさつ運動(通称:ハロフェス)を実施している。昨年度からは当交付金を活用し、啓発物品の購入や小山中学校のキャラクター「おにやまくん」着ぐるみを作成し、「おにやまくん」やバルーンアーチ等を使ったハロフェスを実施し、一層盛り上がりを見せている。 朝から元気にあいさつをすることは、一日を気分よく過ごせ、勉学に励めるとともに、何事にも意欲的になる効果が出てくる。また、落ち込んでいる生徒に気付くことができるなど、校内の明るさや生徒の積極性が上がることに繋がっており、必ずや中学校生活3年間を健全に過ごすことの一助となると捉えている。	ハロフェスを校内外に広げ、地域の方も巻き込んで実施することより、世代間交流を促すとともに、住民同士の絆を深めるなど、地域活動の礎となるソフト面の充実を図る。 新たな啓発物品を作成し、近隣の人たちへのアピールを行うことで、第三者にもこの地区の強固なつながり様を知らしめ、災害時における助け合いや安全・安心なまちづくりの実践地区としての発展をめざす。	○事業内容 ・小山中学校正門や近隣の小学校でのハロフェスの実施(継続) ・ハロフェスを実施する際の啓発物品(横断幕・大型パネル)の作成。 ・小山地区ふるさとまつり爽涼会や小山地区運動会等の場でハロフェスの周知を実施 ○事業スケジュール R7.4月～・小山中学校生徒との啓発物品にかかる打ち合わせ(大型パネル、横断幕、コラボシール) ・小山中学校、向陽小学校及び小山小学校での定例的なハロフェスの実施 R7.6月～啓発物品の発注 R7.9月～地区自治会連合会や公民館やイベントにおいてハロフェスの周知を実施	R7.5.15	100,000	90,000	90,000
2	小山の地域をつなげる会	小山地域の人と人をつなげるプロジェクト	地域における人と人とのつながりの希薄化が進んでおり、とりわけ子どもたちを対象とした活動場所や事業の少ないことが子どもたちの体験不足に繋がることが危惧されている。 当交付金を活用した中で、実施事業のうち数事業は自主サークル立ち上げ等の自立の動きがあるが、すべての事業の自立には至っておらず、引き続き当事業において活動을続け、人と人とのつながりを深める場を提供していく必要がある。	・「遊び」、「学び」、「語らい・ふれあい」を中心とした子どもから高齢者までの多世代交流の事業を実施し、地域住民同士のつながりを深め、より安全安心で住みよいまちづくりの一助とする。 ・当交付金の活用により築かれてきた「様々な団体との連携」、「地域					

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
3	NPO法人 ジョガボーラ	不登校児童生徒のためのスポーツサポート(スポサポ)事業	市内全体においても不登校の児童生徒数は年々増えており、市内の中学生で占める割合は全体の7%に及んでいる。各民間団体による無料の学習支援教室等は増えてきているが、運動等の体を動かせる施設が少ないという課題がある。 そのようなか、この「スポーツのまち・小山」において、地区内にできた新たなスポーツ施設を拠点に、子どもたちが直接顔を合わせ、心から一緒にその時間を過ごすことが真のコミュニティや地域の活性を育み、「子どもの居場所づくり」にも繋がる取組が必要とされている。また、相手や自分の心や体を大切に思い、長きにわたり自身の健康を保つということも非常に大切である。 また、事業を始めた中で、もともと運動が苦手であったり、体をつかった遊びがあまり好きではない子どもたちも多いことも分かったため、簡単なゲームや会話など含めた、幅広い事業展開をしていくことが必要である。 さらに、不登校児童生徒の保護者が仕事を辞めざるを得なかったり、子どもや学校・家族とのやり取りにより、日々精神的な苦痛を感じているという課題があることも知り、保護者に対するサポートも必要である。	・不登校児童生徒に対して、心も身体も安心ができ、ともに遊びや運動ができることで喜びが得られるような居場所づくりを通じて、心身の健康の促進や社会への信頼・積極性につながる意欲を持たせるサポートを図る。 ・苦しい状況下にいる保護者に対しても、事業を通じて安心して現在の状況や気持ちを話す機会を作り、心身のソフト的なサポートを行う。 ・地域の方や関連団体の協力も積極的に得ながら事業を展開し、小山地区内における子どもの見守り体制の構築の一助する。	○事業内容 ・相模原スポーツ・レクリエーションパークにおいて、ボール遊び等の体をうごかす遊びや、しりとり等の簡単な遊びを通したグループ活動を実施する。 ・同じ境遇の同年代の生徒や、大学生等のボランティアとの交流を行う。また、同じ境遇である保護者同士の交流を行う。 ・利用者のほとんどが放課後等デイサービスの子どもたちであったため、あらためて周知方法を検討する。 ○事業スケジュール R7.4月～ボール遊びや簡単な遊びを通した体を動かす機会の提供 毎週火曜日 午前13時00分 ～ 14時30分 (施設の空き状況・天候による) 場所:相模原スポーツ・レクリエーションパーク	R7.5.16	516,000	500,000	500,000
			近年、地域の高齢化とコミュニティの希薄化が大きな課題となっている。小山地区においても例外ではなく、介護やひとり暮らしをしている人も少なくない。地域のイベントや交流も以前より減ってきており、高齢者の外出の頻度も減り、顔見知りも少なく孤独な日々を送る人が増えてきているという現状がある。 今後も高齢化は加速していくため、元気に活動できる高齢者が増えていくことが重要である。そのため、高齢者が地域で社会参加する機会を増やすことや、介護や認知症予防にもつながるような取組を行う必要性を感じている。	高齢者に対して手しごとを通じたコミュニティの場を作ることで、脳を活性化させ認知予防につなげる。コミュニティの場で悩みごとの相談や、仲間と一緒に楽しむことで、孤立を防ぎ安心して暮らせる小山地区を目指す。 また、各自治会館を借用して事業を実施することで、					